

解 答

- 一 問一 年のはじめ
問二 雨乞いとしてはあまり期待されていない存在。
問三 ウ
問四 本物の雨乞いの衣装を身につけていいのは「雨雲に気に入られたもの」だけだということ。
問五 らくだは無
問六 やさしい兄たちが自分のせいで粉々にされたことが悲しく、申し訳なく思われ、さらに、人々から憎まれ、遠ざけられたことで、たえがたい苦しみを感じている。
問七 ア
問八 バシンバシ
問九 イ
問十 「かぎ」に深く感謝し、彼こそが本物の雨乞いであり、雨乞いの衣装を着るにふさわしいと認めて、衣装を燃やして「かぎ」のいる空へ届けようと考えたから。
問十一 a 余念 b 予兆 c 秘蔵 d 大規模 e 総動員
- 二 問一 a 幼児 b 課題 c 確〔かめた〕 d 自問
問二 1 簡単な（単純な） 2 笑い（笑み）
問三 あるものについて、誰が見てもそれとわかるように、形で表現するもの。
問四 C 一人一人が違うからこそすばらしいということに気づかなくなってしまう点。
D 自分らしく感じることも考えることもできない、不自由な心の状態になってしまう点。
問五 じゅうにんという
問六 人は一人一人違うからこそすばらしいのだということに気づかないため、みんなと一緒になければだめだと思ひこむような考え方のとき。
問七 ウ
問八 人とは違う自分らしいものの考え方を持ち、自分の意志で何かを作り上げることができたときに、自分自身を誇らしく思う気持ち。